

令和5年度

阿南市立椿町中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自ら考え、判断し、表現できる生徒を育てるための創意工夫のある授業の実践
- 認め合い、意思の疎通を図り、学びあう授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
教諭 中山 久美	校長 三木 健司 教頭 三好 英夫 研修主任・小中一貫コーディネーター 久家 陽子

校長

三木 健司

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の椿中タイムでの読書、計算、英単語、視写、により、読み書きの基本的なことについては一定の成果が見られ、自信をもつ生徒が多い。 ●各自の不得手な学習をそのまま放置している生徒が見られ、知識の定着が不十分な生徒への学習意欲の喚起や支援体制の改善・充実が課題である。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができおり、正しい言葉で文章を読んだり書いたりできる。 ・身に付けた知識や技能を、生活の場面や他の学習に活用することができる。 ・課題提出率100%をめざす。	・毎時間の「目標(めあて)」学習課題」の提示を行い、計画的な指導をする。 ・わかりやすい授業を展開するとともに、毎時間の「まとめ」を行う。 ・生徒が興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・学力定着のための家庭学習の内容や方法を、具体的に指示し点検する。	・ICTを使った問題を数多く解くことによって、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせる。	・めあてを提示し、本時の内容をつかませることによって、授業の展開がスムーズであった。 ・学力定着のため、まとめの時間を確保し、授業の振り返りを確実に行うことができた。 ・課題の提出率はほぼ100%であった。	・授業中にまとめまでたどり着けない生徒に対しては個々の対応を丁寧に行う。 ・家庭学習の内容や方法の具体的な指示を明確に行い、確実に家庭学習に取り組ませる。 ・狭い範囲の課題を数回に分けて復習するなど生徒が見通しをもって取り組むことができるようにする。 ・身に付けた知識や技能を、生活の場面や他の学習に活用することができるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○個人差はあるものの、学習した知識を活用して課題に取り組もうとする生徒が多い。 ●少人数のために、多様な意見や考えを発言したり、書いて表現したりすることに課題が見られる。	・他の生徒にわかりやすく説明したり、相手の意見を聞いて、さらに意見を述べたりすることができる。 ・広い視野を持ち、多様な意見を理解し、互いに話し合い解決する方法を考へることができる。	・多様な意見や考えがうまれるような体験活動を積極的に取り入れる。 ・学習活動の中で自分の思いや考えを筋道を立てて書いたり、伝え合ったりする機会を意図的に取り入れる。	・全校道徳の時間を設定し、他の生徒の意見を聞いて、さらに自分の考えを構築できるよう取り組む。 ・発表の機会を増やし、自分の考えを定型文を使って書く活動を行い、考えをまとめる練習をする。	・発問を工夫することで、多様な意見を生み出すことができた。 ・自分の言葉で伝えることを授業の活動として取り入れることで、自信をもつことができた生徒がいた。 ・ALTが主導になった授業では、活発な言語活動が見られ、多様な意見を理解し合い、認め合うことができた。	・お互いの意見を尊重し合う受容的な雰囲気作りを心がける。 ・普段の授業でも積極的に生徒間のコミュニケーションの場を設けるよう努める。 ・協働学習や伝え合う活動など共に考える時間の設定をする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○地道に学習に取り組む、学習や生活のきまりをしっかり守り、落ち着いた学校生活を送ることができる。 ●疑問に思うことを調べたり、質問したりする積極性や家庭での学習習慣の定着に課題が見られる。	・課題に積極的に取り組み、わからないことや疑問に思うことを調べたり、質問したりする中で学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」にもある、ノート指導を徹底する。 ・生徒の興味・意欲を喚起し、生徒が能動的に取り組める授業実践をする。 ・個人面談や学年だより等を通して家庭での学習習慣の啓発・定着を図る。	・「わかったこと」「わからなかったこと」を授業時間内に確認し、次時につなげる。 ・家庭での学習習慣の定着を図るために自主学習ノートを活用して自ら考えて学習する力を育てる。	・わからないことに対して、自分で調べたり、人に聞いたりすることが増えた。 ・タブレットを使って学習内容の確認や疑問点を調べる生徒が増え、積極的に学ぼうとする姿勢が見られた。 ・言われたこと、与えられたものは丁寧にするが、自分から進んでやることは少ない。	・自分の進路についてしっかり考え、明確な目標をもつこと、それを達成するための実践力を養うことが大切である。将来のビジョンをできるだけ具体的に考えさせる。 ・教員間で授業参観を行い、お互いの授業改善に取り組む。 ・机間巡視などで生徒が個別に問いかける場を増やし、疑問点をさせる。 ・生徒にとって身近な題材を活用し、興味・関心を引き出す工夫をする。

令和5年度 学力向上ロードマップ

